

日福大「語り継ぐ」

25人犠牲バス事故から40年

スキーアクティビティに向かうバスが長野市の川に転落し、日本福祉大(愛知県美浜町)の学生ら25人が死亡した事故から28日で40年となるのに合わせ、大学は同日、現場近くの慰霊碑前で法要を開いた。遺族や同級生ら25人が参列。慰霊碑に花を手向けた。



日本福祉大で、学生に遺族の声を伝える原田正樹学長=美浜町で

当時大学職員として対応に当たった丸山悟理事長はあいさつで「事故当時を知る職員はほとんどいなくなってしまった」とし、学生らに語り継いでいく

事故は1985年1

月28日早朝に発生。長野県内のスキー場を目指していたバスが、凍結した路面でスリップして犀川に転落した。46人が乗っていて大学生22人、教員1人、乗務員2人の計25人が犠牲となつた。

大学は愛知県のキャンパスでも追悼集会を行なつた。

と決意を述べた。

現場は川をせき止めたダム湖で、弔いのため遺族らが湖面に向かって団子を投げる場面もあった。当時バスに乗車し生還したものもあった。当時バスに

高校の同級生を事故で亡くした原田正樹学長が、学生約50人に、事故の様子や遺族の声を伝えるオリエンテーションをした。原田学長は「普通の暮らしは尊いこと。亡くなつた先輩の思いを引き継いで社会で活躍してほしい」と話し、学生は神なりにやつていけた妙な面持ちで聴き入っていた。